

高等部2年 生活単元学習 学習指導案

日 時：令和6年12月17日（火）

2・3校時（9：50～11：10）

場 所：高等部2年生教室、高等部多目的室

指導者：須藤 郁子（T1） 小林 成輝（T2）

小笠原 行（T3） 福士恵美子（T4）

三上 智子（T5）

1 単元名 「もぐもぐきりたんぽランドオープン！～西館小学校の1・2年生をハッピーにしよう～！」

2 単元の目標

- （1）西館小学校の児童がワクワクしながら遊べる「安全に」、「分かる」、「できる」遊び場を作り招待することを通して、実態に合った遊具を制作する力や児童が安心を感じる関わり方を身に付ける。（知技）（思判表）
- （2）よりよい遊び場にするために成果や課題を見出し、自分たちの考えや得た情報を整理、比較しながら実践や話し合い、評価をし、課題解決する力や態度を養う。（思判表）（学人）

3 生徒と単元

本学習グループは、男子12名、女子6名で構成されている。言葉でのやり取りが難しい生徒も数名いるが、おおよその指示理解はできる。また、体調面や精神面で配慮が必要な生徒も、自分で授業時間や内容を考慮しながら活動量を調整し、授業に参加できる時間が長くなってきている。本生徒たちには、自然に友達を助けようとする優しさや、豊富なアイディアを生かして制作活動に集中して取り組める良さがある。一方、実体験の不足や不特定多数の人との関わりへの不安から、未経験のことを想像して考えることが難しい面もある。相手が分かっていることで安心した気持ちで彼らの持ち味を発揮できると考え、身近な存在である小学部の児童を対象に交流を重ねてきた。

本校高等部2年生は例年、大館市のきりたんぽ祭りへ出店している。出店に向けた事前学習で学んだきりたんぽの歴史や知識を基にペープサート劇を作り、小学部児童に披露し喜んでもらうことができた。次の単元ではオリジナルの遊具を作り、遊び場「もぐもぐランド」をオープンしたことで、招待した児童の笑顔に喜びを感じ、大きな達成感を得ている。

本単元は遊び場「もぐもぐきりたんぽランド」を作り、西館小学校1・2年生を招待する。初対面で本校の児童と実態も異なるが、これまでの成功経験から見通しや自信をもって、西館小学校の児童がワクワクした気持ちで遊べる遊び場を作ることができる考える。また、初対面の相手にも自分から関わり、楽しんでもらえる経験をすることで自己有用感が高まり、今後の様々な場面における多様な人々との交流にもつながると考え本単元を設定した。

指導に当たっては、以下の点に留意する。

- ・西館小学校の児童の様子が分かり、接し方を考えるための手立てとなるよう、単元の初めに、児童が活動している様子の動画や顔写真を示す。
- ・児童が安全に遊びを楽しむことができるよう、遊具の強度や活動スペースの広さ、動線、遊び場の安全性に十分留意することや、危険箇所がないように制作中に細部まで確認することを伝える。
- ・前単元を通じてグループの友達の得意なことを理解し、自然に役割分担が行われるなど活動がスムーズに進み安心して学習に臨んでいることから、グループ編成は前単元と同様にする。
- ・本時の成果や課題を理解して次時へ生かしたり、グループの友達と十分に意見交換したりできるよう丁寧な振り返りの時間を確保し、必要に応じて教師が話し合いの流れや方向性を整える。

4 指導計画（総時数49時間）

小単元名	小単元の目標	主な活動内容	重点を置く 資質・能力			時数	扱う教科等
			知	思	学		
(1) 交流相手や日程を知ろう。	・児童が遊んでいる動画を視聴して好きなことを知ったり、どのような接し方が望ましいのか考えたりする。（思判表）	・交流について知り、見通しをもつ。 ・様々な資料から児童の実態を考える。		◎		2	国語 社会 家庭 情報
(2) もぐもぐきりたんぼランドの内容を決めよう。	・児童の実態を基に、初めてでも「安全」に、「分かる」、「できる」遊びの内容を友達と相談して考え、決定する。（思判表）	・前時までの学習で知った児童の実態を基に、遊びの内容を相談して決める。		◎		4	国語 数学 美術 家庭
(3) もぐもぐきりたんぼランドを作ろう。	・「安全」に、「分かる」、「できる」ことを意識し、友達と協力して遊び場を作る。（知技）（思判表） ・各グループの遊びをお互いに体験し具体的な理由を付けてアドバイスする。（思判表）	・グループに分かれて遊び場作りをする。 ・互いのグループの遊びを体験し、アドバイスをする。	◎	○		15	国語 社会 数学 美術
(4) 小学部の児童を招待しよう。	・友達同士で言葉を掛け合って協力したり、児童が分かる伝え方などに留意して接したりする。（知技）（思判表） ・成果と課題を共有し、よりよい遊び場にするためにできることを考える。（思判表）（学人）	・小学部の児童を招待し、遊び場をオープンする。 ・オープン後に振り返りをし、成果と課題を考える。	○	○	◎	3	国語 社会 数学 家庭
(5) 西館小学校の1・2年生を招待する準備をしよう。	・児童が期待感をもてるポスターや招待状を作成する。（知技）（思判表） ・前時の振り返りをし、児童がよりワクワクした気持ちで遊べる遊び場にするための工夫を加えたり、本番に向けた練習を通して改善したりする。（知技）（思判表）（学人）	・児童に向けたポスターや招待状を作成する。 ・小学部の児童を招待した際の成果や課題、アンケートを基に、遊び場を改良する。 ・身近な人を招待して、本番に向けた練習をする。	○	◎	○	18 (本時 15・16/18)	国語 社会 数学 家庭 情報
(6) 西館小学校の1・2年生を招待しよう。	・児童をワクワクさせたいという気持ちを持ち、児童の様子に合った表情や伝え方、態度を意識して、できることを実践する。（思判表）（学人） ・児童の様子を見て、状況に応じた言葉掛けや対応をする。（思判表）	・西館小の児童を招待し、遊び場をオープンする。 ・前回のオープンの経験を生かし、児童により楽しんでもらえるように関わる。	○	○	◎	3	国語 社会 数学 家庭
(7) 振り返りをして今後の活動を考えよう。	・遊び場のオープンを振り返り、成果や課題を見つけて具体的に発表したり、今後どのように生かすか考えたりする。（思判表）（学人）	・オープンを通して感じたことや成果、課題を話し合い、ワークシートや掲示物にまとめる。		◎	○	4	国語 社会 家庭 情報

(1) 本時の目標

- ・お客さんがワクワクした気持ちになるような表情・伝え方・態度を意識して遊び場をオープンしたり、本番に向けて課題を見出し、その解決方法を考えたりする。(思判表)(学人)

(2) 学習過程

時間	学習活動	手立てと配慮点 評価
9:50 (10)	1 挨拶をする。 2 前時の振り返りをし、事前に決めた「表情・伝え方・態度」に関する目標やイメージを共有する。	・前時の学習を思い出すことで本時の学習にスムーズに取り組めるよう、前時の板書やワークシートを見たり、グループで今日の活動について話し合ったりする時間を取る。 T 1 ・前時までに決めた「表情・伝え方・態度」に関する目標やイメージを共有し、児童をワクワクさせるために実践できるよう、キーとなる箇所について問い掛ける。 T 1 めあて お客さんがワクワクするようにオープンしよう！
10:00 (40) 10:05 〃 10:35 オープン 10:35 〃 10:40 片付け	3 グループで役割やめあてを確認してもぐもぐきりたんぼランドをオープンする。 【つり】 S 1 6 S 1 5 S 1 7 S 1 4 S 1 8 (T 2) 【とりとりパニック】 S 6 S 8 S 7 S 9 (T 3) 【カルタ】 S 1 2 S 1 0 S 1 1 S 1 3 (T 4) 【パズル】 S 4 S 5 S 3 S 1 (T 5)	・児童を想定した対応ができるよう、高等部3年生に児童役と児童のように振る舞い、評価してもらうことを依頼する。 T 1 ・やるべきことに自ら気が付き、友達同士でアドバイスをし合えるよう、教師の支援は最小限に止め、言葉や説明を補足するなど生徒をつなぐ役割をする。 T 1～T 5 ・やることが分かって自信をもって果たせるよう、得意なことを生かせる役割や使いやすい道具等を取り入れる。 T 1～T 5 ・児童の実態に沿い、ワクワクさせるための「表情・伝え方・態度」が実践できている時には、さらに積極的、主体的に活動できるよう、具体的な言動を捉えて称賛する。 T 1～T 5 ・振り返り場面で生徒の思考のヒントとなるよう、めあてや目標に関連する場面等を記録する。 T 1～T 5 《評価の視点》児童をワクワクさせたいという気持ちで、表情・伝え方・態度に関する目標を意識して接している。
10:40 (30)	4 活動を振り返る。 (1) 振り返り(良かった点・改善点)、「イチオシ!」、次回の学習をワークシートに記入する。 (2) 「イチオシ!」を発表する。 (3) 次時の学習内容と要点を知る。 (4) たんぼシールを貼る。 5 挨拶をする。	・S 1 4、S 9、S 1 3、S 1 はグループの教師と振り返りをした後、西館小交流用の看板の制作に移る。 T 1～T 5 ・学習を振り返り、生徒が安心して思いを表現し、思考を深められるよう、発言を肯定的に受け止めて共感したり、問い返しや意味、根拠等を聞いたりする。 T 1～T 5 ・活動時の様子を思い出したり、学習の履歴を活用したりできるよう、タブレット型端末で画像等を提示する。また、発表時に共有できるよう、テレビに画像やワークシートを映す。 T 1～T 5 ・めあてに沿った自分たちの成果や課題を理解、整理したり、互いの頑張りを認め合い、参考にしたりできるよう、今日特に力を注ぐことができた点や次回につながる改善案の中の一つを「イチオシ!」として発表する場を設ける。 T 1～T 5 ・学習に見通しをもち、次時の要点が分かるように、今日の成果や課題、学習予定表を併せて次時の説明をする。 T 1

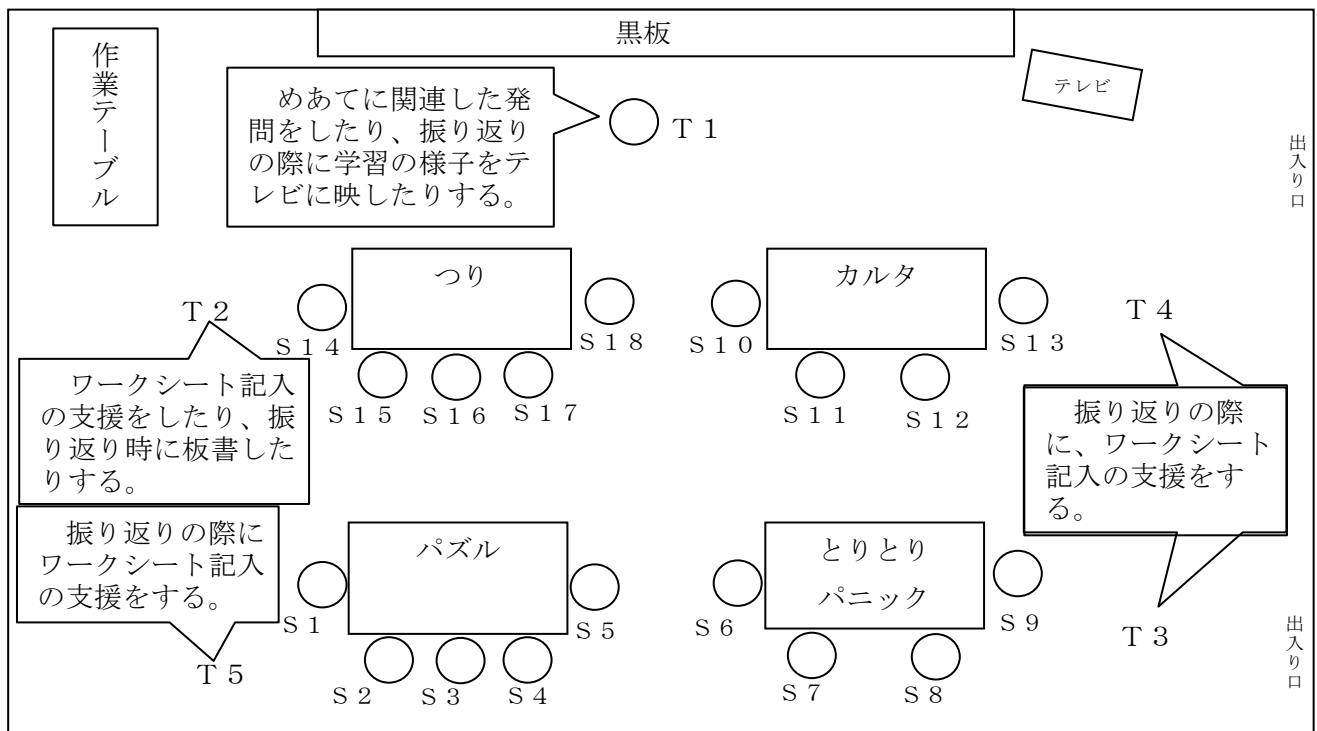
※.....は発問に関する支援

(3) 本時の評価

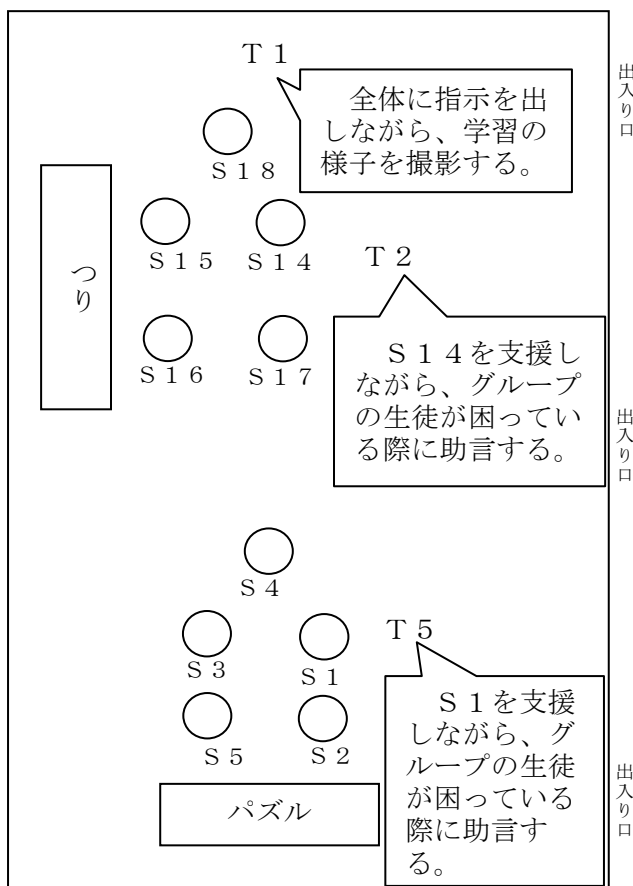
- ・生徒が本時のめあてややるべきことを理解し、お客さんをワクワクさせようと一生懸命になる姿を引き出したり、次時へ向けた課題の解決方法を考えたりできるような支援は適切だったか。

(4) 環境設定について

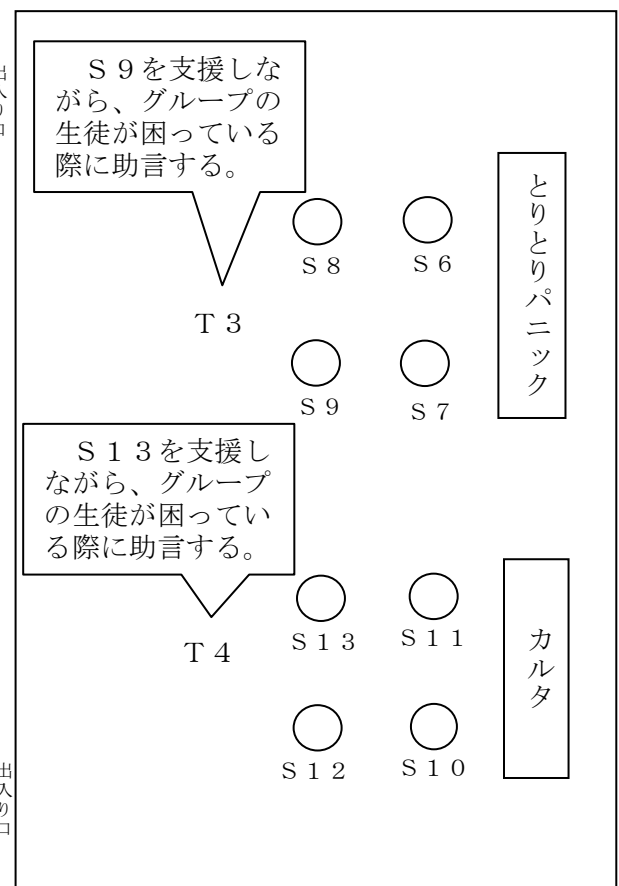
〈高多目的室前方〉導入、振り返り



〈高多目的室〉展開



〈高2教室〉展開



単元の目標

- (1) 西館小学校の児童がワクワクしながら遊べる「安全に」、「分かる」、「できる」遊び場を作り、招待することを通して、実態に合った遊具を制作する力や児童が安心を感じる関わり方を身に付ける。(思判表)
- (2) よりよい遊び場にするために成果や課題を見出し、自分たちの考えや得た情報を整理、比較しながら実践や話し合い、評価をし、課題解決する力や態度を養う。(思判表)(学人)

個別の目標と主な手立て

S 6 (2年) 抽出	本単元の生徒の実態		
	・具体的に内容を考えたり、意見を分かりやすく伝えたりすることは難しい部分もあるが、ある程度見通しや自信がもてると自分から動くことができる。 ・物事の意図を正確に理解することや適した返答ができないこともあるが、自分なりのイメージをもって遊び場作りに取り組んでいる。		
	本単元の目標 ・児童がワクワクするようなアイディアや、「安全に」、「分かる」、「できる」を意識した具体的な発言を友達に伝え、協力して遊び場を作る。(知技)(思判表)(学人) ・児童に楽しんでもらうために、必要なことを聞こえる声で伝えたり、やわらかい表情や大きな動きを意識して説明したりする。(思判表)		
	小単元の目標	本時の目標と評価規準	本時の目標に対する手立て
S 4 (2年)	・児童がワクワクし、「安全に」、「分かる」、「できる」遊び場を作るために、今自分ができていることに気が付いて行動に移したり、児童に積極的に言葉を掛けたりする。(知技)(思判表) ・練習やオープンから得られた成果と課題から、より良くするための改善策を考えて友達に伝える。(思判表)(学人)	・明るい雰囲気や声で自分からお客さんに言葉を掛けて接したり、次回に向けて「もっとこうしたい方がいい」ということを友達に伝えたりする。(思判表)(学人) 評価規準 ・気が付いたことを行動や言葉で表現したり、実現できそうな改善案を提案したりしている。	・お客さんとどのように接すればよいか理解できるよう事前に決めた「表情・伝え方・態度」のポイントを示したり、事前に一緒に練習をしたりする。 ・何について考えるのか分かりやすくできるよう、話し合いの視点を示したり、具体的な場面を提示したりする。
	本単元の生徒の実態		
	・自分のグループのみではなく全体をリードし、積極的に発言をしながら、友達の意見も聞き、話し合いをまとめている。 ・遊び場作りでは、児童ができるか、好むかなどを考え、友達と相談したり、指示を出したりしながら活動している。		
	本単元の目標 ・「もぐもぐきりたんぽランド」の全体像を把握し、児童がより楽しめる遊び場にするために積極的に発言をしたり、友達に言葉を掛けたりする。(知技)(思判表)(学人) ・児童にとって分かりやすい言葉の選択や聞き取りやすい声を意識しながら、笑顔で接する。(思判表)		
S 4 (2年)	小単元の目標	本時の目標と評価規準	本時の目標に対する手立て
	・状況に応じた判断をしながら友達に言葉を掛けると共に、児童が安心してワクワクしながら遊べる接し方を工夫して実践する。(知技)(思判表) ・次回の招待に向けてもっと良くしたい点を見付け、どのように改善するか具体的な案を出す。(思判表)(学人)	・相手の様子を意識しながら今必要なことをしたり友達にアドバイスをしたりする。(思判表) ・もっと良くしたいという思いをもち、次回に向けて実現可能な改善案を出す。(思判表)(学人) 評価規準 ・状況に応じて臨機応変に行動したり、友達に的確にアドバイスをしたりしている。 ・自分たちにできる改善案を出している。	・周りの様子を把握しながら活動できている時は見守り、必要な時に行動や話し合いのきっかけとなるような発問や言葉掛けをしたりする。
	本単元の生徒の実態		
	・自分のグループのみではなく全体をリードし、積極的に発言をしながら、友達の意見も聞き、話し合いをまとめている。 ・遊び場作りでは、児童ができるか、好むかなどを考え、友達と相談したり、指示を出したりしながら活動している。		

S 1 2 (2年)	本単元の生徒の実態		・積極的に発言することは少ないが、必要な場面での確かな意見を言うことができる。 ・遊び場作りでは、どのようにすれば児童がワクワクし、「安全」、「分かる」、「できる」のかという自分なりのイメージをもっており、形にしようとしている。	
	本単元の目標		・児童がより楽しめる遊び場にするために、気付いたことを積極的、具体的に友達に伝えたり、時間いっぱい活動したりする。(知技)(思判表) ・自分から児童に言葉を掛けたり、遊びやすいようにその場でできる工夫を取り入れたりしながらオープンする。(思判表)(学人)	
	小単元の目標	本時の目標と評価規準	本時の目標に対する手立て	
	・児童がワクワクできるように状況に応じた自分ができることを見付け、行動に移す。(思判表)(学人) ・児童の様子から成果と課題を見だし、より良い遊び場にするために解決策を考え、根拠を明確にして友達に伝える。(知技)(思判表)	・お客さんがワクワクできるように自分から言葉を掛けたり、状況に合った関わり方をしたりする。(思判表) ・次回に向けて解決したいことを見付け、その方法を理由と共に友達に伝える。(思判表)(学人) 評価規準 ・状況を見て相手に必要な言葉掛けをしたり、誘い掛けをしたりしている。 ・どうしてそう思うのか、自分の言葉で伝えている。	・自信をもって活動できるように、良い場面を捉えて具体的に評価をすると共に、気付きとなるようなことを質問したり、写真などで提示したりする。	
S 1 6 (2年)	本単元の生徒の実態		・発言はあまり多くなく、未経験のことへの不安があるが、分からないことを質問したり、活動への期待感や楽しさを感じたりするようになってきている。 ・前単元を通して遊び場作りへのおおよその見通しをもっており、予想を立てながら活動している。	
	本単元の目標		・疑問点や不安に思うことを教師に伝え、確認することで安心感をもち、友達に言葉を掛けたり、自分ができることを見付けたりしながら活動する。(思判表)(学人) ・児童に説明が伝わる声の大きさや言葉の選び方を意識したり、状況を見て臨機応変に行動したりする。(思判表)	
	小単元の目標	本時の目標と評価規準	本時の目標に対する手立て	
	・児童がワクワクする遊び場にできるよう、必要なことを自分から確認や質問し、実践する。(思判表)(学人) ・練習やオープンを通して成果や課題に気付き、自分たちができそうな改善策を考え取り入れる。(知技)(思判表)	・お客さんがワクワクするために必要だと思うことを実践したり、次回できることを考えて教師や友達に伝えたりする。(思判表)(学人) 評価規準 ・お客さんに聞こえるように声の大きさやトーンを変えたり、目線を合わせて伝えようとしたりする。 ・考えたことや疑問に思ったことなどを自分から教師や友達に伝えている。	・実践してほしいことをイメージしやすいように、普段の言動と比べて本人がお客さんのために意識しているところを称賛したり、手本や写真、動画などを提示したりする。	

単元で扱う各教科等の目標・内容

国語 P 2 5 5～2 6 1（特別支援学校学習指導要領解説 知的障害者教科等編（上）高等部）

知技：ア（ア）（カ）、イ（イ）、ウ（ウ） 2段階

ア（ア）社会生活に係る人とのやり取りを通して、言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気付くこと。
 ア（カ）日常よく使われる敬語を理解し使い慣れること。
 イ（イ）情報と情報との関係付けの仕方を理解し使うこと。
 ウ（ウ）㊦用紙全体との関係に注意して、文字の大きさや配列などを決めて書くこと。

思判表：Aイウエオ 2段階 Bウ 1段階 Bア 2段階

Aイ 目的や意図に応じて、話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合う内容を検討すること。
 Aウ 話の内容が明確になるように、話の構成を考えること。
 Aエ 資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること。
 Aオ 互いの立場や意図を明確にしながら、計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすること。
 Bウ 自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。
 Bア 目的や意図に応じて、書くことを決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。

社会 P 2 6 4（特別支援学校学習指導要領解説 知的障害者教科等編（上）高等部）

知技：ア（ア）㊦ 2段階

ア（ア）㊦社会の中で互いに協力しながら、社会生活に必要な知識や技能を身に付けること。

数学 P 2 8 5、2 8 7、3 1 3（特別支援学校学習指導要領解説 知的障害者教科等編（上）高等部）

思判表：Aウ（イ）㊦、エ（イ）㊦ 1段階

学人：数学的活動 ア（ア） 1段階

Aウ（イ）㊦日常の事象における場面に着目し、目的に合った数の処理の仕方を考えるとともに、それを日常生活に生かすこと。
 Aエ（イ）㊦数量の関係に着目し、計算の仕方を考えたり、計算に関して成り立つ性質を見いだしたりするとともに、その性質を活用して、計算を工夫したり、計算の確かめをしたりすること。
 数学的活動ア（ア）日常の事象から数学の問題を見いだして解決し、結果を確かめたり、日常生活等に生かしたりする活動。

美術 P 3 7 5（特別支援学校学習指導要領解説 知的障害者教科等編（下）高等部）

知技：ア（イ） 2段階

ア（イ）材料や用具の特性の生かし方などを身に付け、意図に応じて表現方法を追求し、自分らしさを発揮して表すこと。

家庭 P 3 9 3、3 9 4（特別支援学校学習指導要領解説 知的障害者教科等編（下）高等部）

思判表：Aイ（イ） 2段階

ア（イ）家庭と地域の人々とのよりよい関わり方について考え、工夫すること。

情報 P 4 0 9（特別支援学校学習指導要領解説 知的障害者教科等編（下）高等部）

思判表：Cイ（ウ） 1段階

Cイ（ウ）データの収集、整理及び結果の表現の基本的な方法を適切に選択し、実行すること。



本単元の目標

(1) 西館小学校の児童がワクワクしながら遊べる「安全に」、「分かる」、「できる」遊び場を作り、招待することを通して、実態に合った遊具を制作する力や児童が安心を感じる関わり方を身に付ける。（知技）（思判表）	数・社・ 美・家
(2) よりよい遊び場にするために成果や課題を見出し、自分たちの考えや得た情報を整理、比較しながら実践や話し合い、評価をし、課題解決する力や態度を養う。（思判表）（学人）	国・社・ 家・情

抽出生徒 S 6 の単元目標に含まれる各教科等の目標・内容

国語 P 2 5 5、2 5 7、2 5 9（特別支援学校学習指導要領解説 知的障害者教科等編（上）高等部）

知技：イ（ア）1 段階 ア（ア）2 段階

イ（ア）考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など、情報と情報との関係について理解すること
ア（ア）社会生活に係る人とのやり取りを通して、言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気付くこと。

思判表：A イ ウ 1 段階

A イ 目的に応じて、話題を決め、集めた材料を比較するなど伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。
A ウ 話の中心が明確になるよう話の構成を 考えること。

社会 P 2 6 4（特別支援学校学習指導要領解説 知的障害者教科等編（上）高等部）

思判表：ア（ア）① 1 段階

ア（ア）①社会生活の中で状況を的確に判断し、自分の役割と責任について考え、表現すること。

数学 P 2 8 5（特別支援学校学習指導要領解説 知的障害者教科等編（上）高等部）

思判表：A ウ（イ）㊦ 1 段階

A ウ（イ）㊦日常の事象における場面に着目し、目的に合った数の処理の仕方を考えるとともに、それを日常生活に生かすこと。

美術 P 3 7 5（特別支援学校学習指導要領解説 知的障害者教科等編（下）高等部）

知技：ア（イ）2 段階

ア（イ）材料や用具の特性の生かし方などを身に付け、意図に応じて表現方法を追求し、自分らしさを発揮して表すこと。

家庭 P 3 9 3、3 9 4（特別支援学校学習指導要領解説 知的障害者教科等編（下）高等部）

思判表：A イ（イ）2 段階

ア（イ）家庭と地域の人々とのよりよい関わり方について考え、工夫すること。

自立活動（特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編 幼・小・中）

P 7 1 人間関係の形成（4）

（4）集団への参加の基礎に関すること。

P 8 1 環境の把握（5）

（5）認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関すること。

P 1 0 0 コミュニケーション（5）

（5）状況に応じたコミュニケーションに関すること



抽出生徒の本単元の目標

・児童がワクワクするようなアイディアや、「安全に」、「分かる」、「できる」を意識した具体的な発言を友達に伝え、協力して遊び場を作る。	国・数・美・自
（知技）（思判表）（学人）	
・児童に楽しんでもらうために、必要なことを聞こえる声で伝えたり、やわらかい表情や大きな動きを意識して説明したりする。	国・社・家・自
（思判表）	

